

## 令和3年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和3年 10月 26日

|    |            |     |                |      |       |       |     |
|----|------------|-----|----------------|------|-------|-------|-----|
| 校番 | 202<br>127 | 学校名 | 広島観智学園中学校・高等学校 | 校長氏名 | 福嶋 一彦 | 全・定・通 | 本・分 |
|----|------------|-----|----------------|------|-------|-------|-----|

| 評価項目             | 評価 | 理由・意見   |
|------------------|----|---|
| 目標、指標、計画等の設定の適切さ | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通じて焦点化された目標が設定されている。目標3の寮生活に関する3点目の食生活に加えて、生徒の心身の発達と健康を考えていくとよい。</li> <li>・目標、指標、計画の設定が将来の目標、指標に見据えながら、努力すれば到達できる目標指標決定になっていることは評価に値する。</li> <li>・IB プログラムに沿って適切に目標設定がなされている。</li> <li>・教育目標を達成するために、最大限の効果があがるよう組織的な取組が工夫されている。</li> <li>・目標が明確であり、計画どおり実施されている。</li> </ul>   |
| 計画の進捗状況の評価の適切さ   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗状況についてはコロナ感染対策等、色々な制限のなか、順調であり、適切である。</li> <li>・内省と客観的な評価の両面から評価しており、更にそこから次への指標を導きだしている点が高く評価できる。</li> <li>・コロナ禍で色々な変更がある中で難しい部分もあるが、客観的に適切に評価されている。</li> </ul>  |
| 目標達成に向けた取組の適切さ   | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・IB プログラムの充実、そして年度進行に応じて様々なチームや会議が設定されていることがわかる。現時点では縦と横の接続が図られているが、今後ますます難しくなっていくと予想される。会議の実施回数においても定期的な見直しを期待したい。</li> <li>・大きな目標を軸にしながら単年度の目標達成も立てており、適切に運用されている。</li> <li>・コロナ禍で、予定通りに行かない中、状況に応じて適切に変更を行って、取組が遂行されている。</li> <li>・教職員一丸となって努力されている。</li> <li>・学校が一体となった適切な取組がなされている。</li> </ul>  |
| 評価結果の分析の適切さ      | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標3の分布で、寮生活の中での他者への関わりが低いとの分析がある。今後この点を生活指導にいかんにか活かしていくのが課題である。視点として、授業中は積極的に関わるが、寮では個人の活動、プライベート空間を尊重するという考えもある。留学生が増えたとき、「公」と「私」の区別も大事な作法となる。</li> <li>・内部の結果分析のみならず、外部の結果分析も取り入れている点が評価される。</li> <li>・分析については、文章だけではなく、表など図式化を行い、分かり易くする工夫が必要である。</li> <li>・教職員・生徒のアンケートを基に適切な分析がなされている。</li> </ul>  |
| 今後の改善方策の適切さ      | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標3の改善方策に文書回覧による会議削減とある。目標1の教科会議では、クラウドを活用した連絡、共有体制が構築されている。全体的にペーパーレス化を進め、空き時間に手早く情報チェックができる体制の構築を期待する。</li> <li>・軸のぶれない校長のリーダーシップのもと、チームワークを活かして「生徒にとって何がベストかの視点からずれない改善方策を計画、実行できている。</li> <li>・今後の対応策等をもみても適切である。</li> <li>・寮生活における課題は、日本の子どもの現状が表れていると感じる。いじめにつながらないよう、配慮しながらの取組を継続してほしい。</li> <li>・基本的に現状問題ないが、外国人留学生の受け入れ、また DP 開始後のカウンセリング体制、教職員のワークライフバランスをどのように整備していくかといった部分について、より精緻な分析とあらかじめ予想される問題の洗い出しが必要になると思われる。</li> </ul> |
| 総合評価             | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通して計画は順調に進んでいる。特にIDUの取組等、探究的な学びはしっかり実行されている。この成果を県立学校として、県内の他校にいかんにか波及させていくが課題である。戦略的に方針を考える必要がある。他校への波及がHiGAの使命である。</li> <li>・3年目をむかえ、いよいよ来年から高校が開校する。色々な新しい挑戦を是非頑張ってもらいたい。</li> <li>・試行錯誤の段階ではあるが、その中で今できるベストの活動が実施されている。今後もより良い学校になるように期待している。</li> <li>・管理職と現場の先生方、保護者や生徒、地域の方々が一体となり素晴らしいチームワークの基で学校運営がなされている。</li> </ul>   |